小二 繁樹

民博 文化資源研究センタ

パプアニューギニアのマンドッグ島では、 一二月の声を聞くと祭りの準備があわただしくなる。

そんなとき、なぜ人びとはあえて祭りをとりおこなうようになったのだろう。 そのわけを考えてみた。 しかし、この季節は悪天候が続き、とても祭りの季節到来とは思えない。

年末年始は忙しい

わただしい思いにせかせられる。 スセールや歳末セールが始まって、 あきれているうちに、 て来るのかと、ときの過ぎる速さに う一年が経ち、 いよいよ師走に入ってしまった。 すぐに新しい年がやっ 街ではクリスマ あ

おこなうようになったからである。 伝統的な年中行事の多くをまとめて クリスマスから新年にかけての休日で、とも、大きな祭りが続いて忙しい。 シアシ諸島にあるマンドッグ島の人び この時期は、パプアニューギニア、

の時期は南東貿易風が強くなる前で は六月から七月に実施していた。 もともとマンドッグ島では、 また主食のなかでも重要なヤ 大祭

> すのには最適な季節である。 よし食べ物もありという、行ムイモの収穫期にもあたる。 そして逆に、 一二月から一月にか 行事を催 天気も

降雨も多く、 けての季節は、過ごしにくい時期に なくなる。 あたる。北西モンスーン風が吹き、 蚊も発生し、 漁獲が少

がもっとも忙 期はイモ類の 事は難儀なのである。 る。 からの三、 さらに端境期となり、 祭りに十分な食べ物を用意するの三、四カ月間は食料が不足すらに端境期となり、ことに九月 植えつけなど、 いときでもある。 りなど、畑作業しかもこの時

調理し直すこともある。 こともあり、 悪天候で家屋が浸水したり壊れる 石蒸し料理など、 豪雨のために祭りが中 ごちそうを

> な外部世界からの影響で変っていく。 た、いわば伝統的な暮らしは、強力しかし、自然の摂理に順応してい

キリスト教がやって来た

会が建ち、 えるたいせつな節目となってきた。 習合される。教会暦は、暮らしを支 的な創成神話はキリスト教のそれと 的に始まる。 されると、 リック教会の司祭館と学校が建設 一九六○年に、ごく近くの島にカ リック教徒となった。 キリスト教の布教が本格 六○○人余の島民全員が マンドッグの島内に教 島の伝統

二月二五日のクリスマス、翌日のボク ニア国として独立を達成すると、 また、 一九七五年にパプアニューギ

> が国の祝祭日として休日となった。 スト教の祝日)、一月一日の新年の日シング・デー (クリスマスに続くキリ

島を離れる若者が続き、公務員や教に組み込まれていく。進学のためにとなってきて、いや応なく貨幣経済 なったり、町への出稼ぎや、町で暮員となって国中を移動する転勤族と 変わり、 らし始める家族も多くなった。 教会付属の学校は公立の小学校と 税金も学校の授業料も必要

に天気が悪いと料理もできない に天気が悪っこ!里・・・日では時間が短かすぎる。特定の日日では時間が短かすぎる。特定の日 しかも、 地元の祭りということで

日を移すことにしたのである。これな びとはクリスマス休暇に、 そのような状況のなかで、 島の人



クリスマス・ミサ。教会のなかには、十字架、馬小屋とともに現地の伝統的なデザインをほどこした祭壇が設置されている。 また西欧人の神父のとなりには、ブタ牙で装った助祭役の青年が並ぶ(1988年) 製作する。

重要な儀礼は合同でおこなう。

ら長い休日がとれ、都会に出 人びとも帰省できる。 [かけた

大量の食べ物が調達され、分配される 集会所組織への入社式は大規模とな 祝う水かけと踊り初め、 事としては一三種類ほどあるが、 かかわる通過儀礼が重要である。 る。多くの参加者が集い、歌い踊り、 一二月に入ると、祭りの準備が本格 男女ともの初航海を 男性の男子

バナナ、 などの装身具、顔料、手太鼓なども タ牙やイヌの歯、 てほどではないが、儀礼祭宴に使うブ や遠隔地へ船で出かけては、イモ類や 腕飾りなど作り始める。また、近隣 化する。女性たちは舞踏用の腰ミノや 儀礼用具は、ころ合いを見計らって 入手する。今は店で買う米やビスケッ 用意する祖霊の仮面や衣装など各種 ヒーや砂糖も、大量に必要である。 教会の飾りや、 肉の缶詰、ビール、タバコ、 ブタなどの入手に励む。かつ 貝ビーズ、鳥の羽毛 台座や輿、 密かに コー

> けを、 けを、同時におこなった。そして午後どもの立ち上がりを祝う儀礼と水か から翌日の午前三時まで、 翌日の二一日の朝には、三人分の、 る年の例では、一二月一二日に六人分 りの家族と大量の物資を運んで来た 朝まで踊り明かした。機関船が里帰 の踊り初めをおこない、 同時におこなった。 その夜から翌 歌い踊る。

二四日の深夜から二五日の未明には、 本会でクリスマスのミサがおこなわれる。そして昼から翌朝まで歌と踊りが続く。二九日にはビーズの飾りつけ 儀礼。三〇日の午後からは、島をあ げての踊り初めが始まり、その夜か ら三一日の午前中に、仮面仮装姿の祖 霊が出現して、割礼と入社式が実施 された。その午後からは、祖霊に女 性が混じっての歌と踊りとなる。

を食べ、 終わる。 たい気がしてきた。の心のうちを、また改めて尋ねてみ 定まっていく様子は、クリスマスや成 ことに濃密なときをすごすのである。 に石投げの儀礼があり、 帰って行く。そして、翌二日の午前中 はお土産をたくさんもって、東の海に 祖霊が踊る。午後七時半ごろ、祖霊 で、教会でミサがあり、 を連想させる。 人の日の決まり方など、日本の場合 地域の伝統的な行事が年末年始に この年の一月一日は日曜日だったの 寝る間を惜しみながら、 この間、人びとはごちそう 小島に暮らす人びと 一連の祭事が 午後からは ま

関係者に配る

ごち

儀礼にともなう幾種類もの の練習も欠かせない。

教会で披露する賛美歌や